

事業所自己評価シート

令和2年度(2020年)

*保護者(17/19 回収率 89%)・職員(4/4 回収率 100%)

職員による自己評価

A環境面

スペース的には問題はないと考えるが、コロナかとなり、利用者間のスペース確保に難しさを感じる。

B児童への支援内容

児童の成長とともに、健康面の変化もあり、看護師、セラピストと連携を図りながら支援にあたっている。

関りも長くなってはいるが、まだまだ分からないことも多くあるため、ご家族との連携は引き続き大切にしていきたい。

C関係機関との連携

関係機関に関してはコロナ禍となり、電話連絡のみで、以前のように関係者会議の開催などが難しくなっている。

D保護者への説明責任・信頼関係

送迎時のコミュニケーションを大切にするとともに、情勢に合わせてながらご家族との面談を通して、連携を図っている。

E非常対応

全ての曜日にて避難訓練を実施。活動の予定表にも明記しているがまだまだ周知されていない。今まで連絡帳に避難訓練の様子に関しては明記していなかったが、明記をしていきたいと考える。

また緊急時の対応に関しては、ご家族に対して十分に説明できていない。再度緊急時対応のマニュアルを見直し、ご家族に周知していけるようにしたい。

保護者による評価

A環境面

環境、体制整備共にほぼ「はい」の評価をいただいている。

B児童への支援内容

支援に関しては全ての方から「はい」の評価を頂いている。

C事業所からの情報発信

8割以上の方から評価をいただいている。ホームページも遅れてしまうこともあるが毎月更新し活動中の様子の写真を掲載しているのが評価を頂いている。

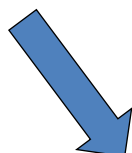
新型コロナウイルスや災害などを考え、次年度より、一斉送信できる連絡体制を導入予定。

D保護者への説明責任、信頼関係

おおむね良い評価のため、今後も面談などを通してご家族と連携を図っていききたいが、コロナ禍の中で、難しさは感じる。

E非常対応

評価をいただいていない。



事業所内での分析

【共通点】

- ・新型コロナウイルスの影響から、学校が休業となったり、分散登校となったりと、事業所だけでなく、ご家族も含め、落ち着かない一年となってしまった。
- ・事業所内でも利用者間のスペースの確保や感染対策等、運営していく中で難しい面もあり、課題が多くあると考える。
- ・上記のようななかでも大きな問題もなく、継続的に運営ができたことは良かった。

【相違点】

- ・保護者と職員が感じていることに関しての相違点はあまり見られない。

分析・検討してみて…

事業所の強み

写真を大切にし、ホームページや定期的にご家族へ配布することで、利用中の様子が分かるようにしている。

豊富な活動を持っていることで、様々な活動を提供できるため、今日な何をするのだろうと楽しみにしながら利用することができる。

事業所の改善点

- ・緊急時に関しては、まだまだ課題は多い。時にコロナ禍となり、様々な課題、ご家族への連絡方法など改善が必要と考え、次年度より一斉送信型の連絡網ツールを導入予定。
- ・利用者間のスペース確保の為、ダイルームにあった、ボールプールを撤去し、スペースを広げることとする。

事業所の改善への取り組み

- ・緊急時などを考え、一斉送信型の連絡網ツールを導入することで、何かあった際に素早く連絡を送れるようにしていきたい。
- ・引き続き全曜日対象の避難訓練を実施するとともに、ご家族へ周知していけるようにしていく。
- ・コロナ禍の中で、事業継続していくことの重要性を考えるとともに、日々の感染対策を徹底していきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナ禍ということもあり、活動も含め、今までできていたことも出来なくなり、様々なことに制限があるが、学校が休業となったり、分散登校となった今、様々な制限がある中でも事業を継続していくことも重要性を強く感じた。今後も感染対策を図りながら、事業を継続していくことを第一に考えていきたい。

事業所名 社会福祉法人 十愛療育会 たっちいずみの

担当者 小林 勇介